

生徒の反応から学ぶ

～活動中の生徒への声掛けの失敗例と心得～

川西高等特別支援学校 木嶋智子



本実践のねらい・意図

実習、授業中に生徒の意欲を向上させられる声掛けとはどのようなものか。赤裸々な実体験から自分なりに考えてみたい。



“声掛け”のハードル

①話しすぎてもだめ

でも、

②必要なときに必要なことを生徒に伝えないと…



失敗事例①

調理実習（袋ラーメン作り）での一コマ その1

①野菜炒め②ラーメンを煮る の順番だが、先にラーメンを煮始めた男子にひと言。

教師「ラーメンを先に煮て大丈夫？」



生徒「...やっちゃいました。失敗だ...」



失敗事例②

調理実習（袋ラーメン作り）での一コマ その2

4分間麺をゆでる→ずいぶん時間がたっている。鍋をずーっと見つめている女子にひと言。

教師「何分ゆでていますか？」



生徒「あ、時間を計っていませんでした！」



気づいたこと

- 1 教師の発言が何の支援にもなっていない
 - ・言ってもしょうがないこと
 - ・生徒の失敗に追い打ちをかけるような発言
- 2 タイミングの悪さ
 - ・もっと早い段階で声掛けしていれば…
 - ・もっと生徒の動きを見ておけば…



今後の課題

- 心得1 丁寧な実態把握、事前確認が大事！
どんな生徒？得意なことや苦手なことは？
どんな言葉かけが有効か？（担任、学年職員から）
- 心得2 生徒の動きを観察することが大事！
前もって次の行動に移る前に確認、生徒自身に次にやることを宣言させてから行動に移させる等。